

## 「行政改革推進市民懇話会」第3回会議の概要

総務部行政改革推進室

- 1 開催日 平成15年5月30日(金)
- 2 会場 いきいき元気館3階ホール
- 3 会議時間 午後4時開会、午後6時35分閉会
- 4 出席委員 24名
- 5 欠席委員 6名
- 6 市出席者 20名(堂故市長、中田助役、木下収入役、國本企画広報室長、前辻総務部長、横澤市民部長、横山建設部長、飯原産業部長、大門市民病院事務局長、舟塚教育次長、吉崎企画広報室次長、永田行政改革推進室長、船場総務課長、尾崎財務課長、行政改革推進室職員：濱井、高橋、東軒、高林、九澤、京田)
- 7 傍聴者 6名(議員5名、川崎議会事務局長)
- 8 協議案件

行財政の健全化、効率化に向けて 中間報告(案)

平成18年度までに見込まれる財源不足額を解消し、行財政を健全化、効率化するために緊急に取り組むべき事項についての中間報告案及び受益者負担に関する資料が提出され、質疑応答、意見交換が行われた。

審議の結果、財政見通しの前提となる条件を明示することで、中間報告の原案が了承され、6月早々に市長に報告することとした。

また、補助金等審査部会から、補助金等の交付基準(案)、補助金・負担金等の一覧表が示され、質疑応答、意見交換が行われた。

次回の日程

第4回会議 7月7日(月)午後4時 いきいき元気館3階ホール

部会

会議終了後、補助金等審査部会が開かれ、今後の審査の進め方等について話し合われた。

部会の日程：補助金等審査部会 6月24日(火)午後1時 市役所会議室

## 9 会議録（発言の要旨）

主な発言内容(要旨)	
会長	<p>ただいまから3回目の会議を開催する。皆さん方には大変忙しい中出席いただき誠に感謝する。</p> <p>行政改革という、どうしても議論が職員や議員の数、あるいは人件費に集中するわけだが、やはり財政的には事業費が大きな問題だろうと思う。先日テレビで見たが、ワールドカップサッカーの競技場を作ったけれども、運営に毎年6億数千万円もの赤字を出している所がある。そういう箇所はいくつかあるが、赤字額も1億数千万円から6億数千万円までいろいろ段階があり、赤字額が少ない所は多目的に競技場を作ったことで多く利用されているようだ。長野県では知事が変わった途端にダムが不要になったとか、あるいは多くの税を注ぎこんで作られた宮崎県のシーガイア、これは2,000億円かかったそうだが、破綻して売却したのが10分の1にも満たない180億円であった。こういうことは、多かれ少なかれ行政を進めている段階で、どこにでもあるのではないかと思う。そういうことをしっかりと見定めていかないと、行政改革にはならないのではないかとも思っている。</p> <p>そういう意味で、今日は事業の廃止、見直しの問題、外部委託の推進、事務処理の見直しなどといったことも議論したい。事務処理の見直しについて言えば、例えば予算を組む場合、事前評価としてはとても良いのだが、正月返上で予算を編成しても、市の場合は総額が決まるのは5月から7月になる。交付税とか補助金とかがその頃に決まるので、9月議会にならないと全貌がはっきりしない。後は見込予算でスタートするわけだが、単独事業以外は予算がはっきりしない。そういう意味では、9月補正というのは大変重要になるわけだが、当初予算に全力を尽くして、補正予算は簡単に議会を通過してしまう。市民にとっても当初予算はきめ細かく知らされるが、補正予算はあまり知らされない。また、総合計画はあるが、予算との整合性はといういま一つである。民間企業であれば決算というのは非常に重要なわけだが、公共団体の場合は、使ってしまった後であり、どうしようもないといった安易な考えがある。全体がそういう気持ちでいるとなると、やはり決算というのは、税金を使う以上説明責任があるので、もっと詳しく説明して評価するということが大事であると思う。そういう風に事務を見直していく間に、行政評価等もなされるのではないかと、また、一般市民ももっと行政に関心を持つのではないかという気がする。それから、タテ割り行政の弊害ということもある。昔から言われていることだが、なかなか改善は難しい。</p> <p>これからの地方のあり方ということになると、行政の問題だけでなく、住民達自身が自分達のことをどれだけやれるのかということ、あるいは受益者負担ということも行政と両輪の形で進むことが強く望まれているのではないかと思う。今日はそういう住民の痛みということも十分に議論していただきたいと思っている。</p> <p>今日議論いただくことと、また前回議論いただいたことを合わせて、この市民懇話会の意見が議会等へも反映されるようにということから、今日は中間報告的なものをお程度まとめて、近日中に市長に報告したいと考えているので、活発な意見をいただきたくよろしくお願いする。</p>
市長	<p>委員各位には何かとご多用のところ、今日で第3回目の全体会議となるわけだが、お集まりいただき感謝する。また、これまでも全体会議、また部会においても熱心に議論いただいており重ねて感謝する。</p> <p>最近の新聞紙上を賑わせている、国から地方への税源移譲、補助金の削減、地方交付税改革、これらを同時に進める三位一体の改革であるが、先に地方分権改革推進会議が示した改革案をめぐって議論が紛糾しており、地方分権改革の行方は全く先が見通せない状況にある。</p>

### 主な発言内容(要旨)

また、能力等級制などの導入を目指す公務員制度改革案も迷走を続けており、政府は今国会の法案提出を目指しているが、人事院や労働側の主張する労働基本権の制約の問題で議論が立ち往生している状況にある。このように国では、国における改革への足取りが大変鈍いと言わなければならないと思う。

先日来申し上げているように、そういう中期・長期を見た場合、大変先が見通し難い状況にあるが、合併をしないという方向を決めたからには、大変苦しいやりくりを想定して、平成18年度までを集中改革期間と定め、その間に見込まれる財源不足を解消するための緊急的な改革プログラムを取りまとめなければならない。またその作り方についても、合併しない地域、あるいは合併を目指す地域から、私ども氷見市の行革の動きが大変注目を受けており、マスコミでも取り上げられているわけであり、そういう中で改革案を先がけて取りまとめなければならない。委員各位のご意見を早急に取りまとめていただき、議会とも同じ方向を目指して、その改革案を実行していかなければいけないと考えている。

前回の会議では、皆さんから財源不足を解消するための削減目標などが示され、踏み込んだ議論をいただいた。今日の会議では、各部会の皆さんにご苦労いただいた中間報告案についての討議がなされると伺っている。委員の皆さんの率直な意見、提言を聴かせていただきたいと思う。よろしくご審議いただきたい。

会長

会議に先立ち、行財政健全化部会及び補助金等審査部会が精力的に開催されているので、その結果について各部会長から報告をいただく。

行財政健全化部会長

部会の方から説明する。行財政健全化部会は、去る5月26日午後7時から9時10分まで、出席委員10名中8名の参加により開催した。主な協議内容については、行財政の健全化、効率化に向けての中間報告案の取りまとめと、受益者負担の見直しについての2項目に絞り協議した。

本日は資料1と資料2を出している。まず資料1について、これは中間報告案であるが、私から簡単に説明する。資料の中を追って頁を示しながら、少しまとめて話をしていきたい。

中間報告に当たり、1頁では、これまでの議論を通じて、中間報告に至るまでの経緯を簡単にまとめたものである。まずは、平成18年度までの4年間に見込まれる財源不足の解消策を早急に打ち出し、市民に示すことが最優先課題であり、直ちに取り組んでいただく必要があるとの観点から、緊急に取り組むべき方策を、市民懇話会の中間報告案として取りまとめたものである。これを示すことで市の対応を促していきたいと考えている。

内容であるが、2頁は、財源不足解消に向けての基本的な考え方ということで、アの単年度収支の均衡と財政調整基金は、先行きが不透明な状況にあることから、後年度のことを考えたときに、できるだけ財政調整基金は温存し、将来的には基金に頼らずとも単年度の収支均衡が図られるよう財政構造を変えていく必要があるだろうということである。

ただ、一挙に解消を図ることは難しい。例えば、6頁の財政見通しにあるように、いま人件費の5%削減を提案しているが、平成18年度の約7億円の収支不足を埋めるとなると5%ではできず、20%削減としなければならない。そうなると一挙にはいかないだろうということから、年度間の財源調整を図るための財政調整基金であるので、今後の経済情勢や地方税財政制度の予測がつかないまま、そこまで求めるのはいかがなものかということで、財政調整基金から補てんすることはやむを得ないとした。

イは人件費であるが、構造的に歳出を圧迫しているのは人件費であり、言うまでもない。人件費は、新陳代謝の促進、職員数の削減に努めるとともに、職員給与についても、一時的な給与削減だけでなく、民間の給与実態や市民の感覚に照らして

### 主な発言内容(要旨)

そぐわないものを見直しながら、構造的な抑制を図っていただきたいということである。

3 頁では、市議員について前回意見が出たので若干修正した。市議会議員の報酬や定数等の見直しについては、議会自ら「議会改革特別委員会」を設置して取り組まれているが、市長はじめ四役が既に給与の10%削減を実践していることから、議会としても、市民に信頼される「良識の府」として、改革の模範となるべき削減案を早急に取りまとめでいただき、市民に示されたいとした。

ウ～オは、前回懇話会とほぼ同内容のため説明を省略する。

カの歳入の確保については、当然のことだが、公平な負担・課税に努め、収納率の向上、滞納額の解消を図られたい。また、未利用の遊休財産等については、売却・貸付等により収入増に努められたい。

キの受益者負担は、直接市民の負担増に繋がる部分だが、市民サービスの低下、受益者負担の見直しなど、市民もある程度の痛みを分かち合うことが必要だが、その前に人件費の削減など行政ができるだけの姿勢を示してから、市民に理解と協力を求めている。これも当然のことだろうと思う。

今日の会議では、この受益者負担・住民負担の問題について、委員の皆さんに大いに議論していただければと考えている。

次に数値目標の設定についてであるが、財源不足額の解消について、この表は前回お示したものであるが、目標額に若干の修正を加えている。その他の収入は、前回 434 百万円としていたが 430 百万円に変更した。内訳は未利用財産の売却が 130 百万円、受益者負担の見直しが 300 百万円である。また、人件費は端数処理のため 1 百万円変更している。この結果、解消見込額は 5 百万円減り 4,914 百万円に、財政調整基金で補てんする額が 5 百万円増えて 899 百万円となっている。

受益者負担の見直しに係るものは、このほか下水道使用料で 150 百万円、これは繰出金の減額として見込んでいるが、いずれも概算で計上したものであり、具体的な項目、実施時期、改定率等については市当局で今後検討されるものである。ただ、試算としては、有料化も含めてゴミ処理手数料、保育料、下水道使用料を高岡市並にした場合に見込まれる額を計上した。

定員の適正化については、定員の削減目標は全国類似団体の平均以下とし、71 人以上の削減を掲げた。なお、前回の資料では全国類似団体との比較は 73 人超過としていたが、71 人であったので訂正する。

公債費負担の適正化については、起債制限比率のほかに、新たに市債残高の総額を 4 年間で 10%以上減少させることを目標として掲げた。

表を見ていただきたいが、新規の借入は、平成 16 年度以降、減税補てん債を除通常債で 16 億円を上限とした。

なお、本来普通交付税として交付すべきものの一部を、平成 13 年度から 15 年度までの 3 年間の時限措置として、臨時財政対策債に肩代わりさせているが、この制度が今後も継続される可能性があるため、これについては数値目標から除外することとした。

臨時財政対策債を除く市債残高は、平成 14 年度末 351 億円であるが、平成 18 年度末までに約 49 億円、率にして 13.8%程度減り、302 億円余りとなる見込みである。

主な取り組み課題と財源不足解消のための目標額については、今後市の方で策定する行財政健全化緊急プログラムに盛り込み、早急に取り組んでいただきたい主な課題を掲げているが、前回の会議での意見等も踏まえ、新陳代謝の促進、医薬分業の進展に合わせた薬剤部門の縮小、地方独立行政法人化の検討等、い

## 主な発言内容(要旨)

くつか追加しているが、説明は省略する。

改革の実現に向けてについては、直接の節減効果を伴うものではないが、改革の実現に向けて、取り組むべきこと、また市民が主役のまちづくり、基金を活かしたまちづくり地方分権への対応などについて、取り組んでいただきたい課題を示したものである。

部会の中でも意見が出たので、ここで特記したのは、市職員の意識改革が最も重要であると思われることから、市職員に求めたいことをいくつか挙げた。

資料2は、受益者負担等に関する調べということで、受益者負担について皆さんに議論していただくため準備したものである。P1～3は使用料・手数料、分担金・負担金など、税金を除いて、住民に負担を求めているものの一覧表であるが、個々の説明は省略する。

P4, 5は、先にお配りした「検討のための基礎資料」から抜粋し、一部追加したものである。表を見てもらえばわかるが、の水道料金は氷見市が一番高い。の下水道料金は高岡市に比べると低い。は保育料について、国の定める基準額に対してどれくらい保育料を低く設定しているかを示すものである。氷見市の場合、軽減率は32.5%で、高岡市の26.5%に比べると6%低い。

のうち、一般家庭ごみ収集手数料は、富山、氷見、滑川の3市が現在無料となっている。また、事業系一般廃棄物処理手数料は、kg 当たり氷見市が 3.2 円に対し、高岡市は 7.5 円である。

以上、部会長報告とする。

補助金等審査部会長

補助金等審査部会は5月15日に開催し、委員5人全員が参加した。今日は資料3と資料4を提出しており、資料3の方から説明する。

1頁目の内容は前回の会議でも示したことであるが、今までの経緯とか基本的な考え方とかが書いてあるので、後で読んでいただきたい。

2頁目の、5補助金等の交付基準の作成についてだが、先の部会の主な議題がこの基準の作成であった。その中で、「対象事業は客観的に見て公共性を有すること」などごく当たり前のことが載っているが、6番目の「補助は団体等の事業が確立するまでの援助であるということ」、これは補助の性質というものをもう一度確認しようということとそこに載せた。

それから次の補助金の分類については前回説明したので省くが、補助金は7つに、負担金は3つに分かれるということで、見ていただければわかる部分である。

7の補助金等の見直しでは、作成した交付基準に基づき、削減目標額を全体的な流れの中で5千万円程度としたいということで数字を挙げた。市民が最も痛みを感じるのはこの部分かと思う。次に、補助金等の見直しを行う区分を決めたのであるが、「廃止」は平成16年度予算に計上しないもの、「減額」は平成15年度予算の10%以上を削減するというものである。実は、5千万円の目標額に到達するためには、全補助金のそれぞれ平均20%以上を削減していかないと到達しないことになる。補助金等は、不公平感が無いようにするためには一律10%、20%削減ということにすれば一番簡単であるが、それぞれの団体の性質等があり、均一にすることはできないのではないかとということで、減額はともかく10%以上を削減することとした。廃止部門も加えれば、平均して20%以上に達するのではないかとことである。それから「終期設定」をしたいということで、補助金がいつまでも続くものではないということとをきちんと決めて、廃止年度を設定していこうというものである。次の「見直し」は、補助金は出していくが事業内容を厳しく見直そうというものであり、5番目の「継続」というのは15年度予算ベースで出していこうというものである。

3頁目であるが、ここで決めたのは先ほど申し上げた基準というものであり、4つに分けており、効果から見た基準、的確性から見た基準、期限から見た基準、制限

主な発言内容(要旨)

からの基準というものを設定した。効果から見た基準は常識的なことであり、見ていただければわかると思うが、ここで特に申し上げたいのは2番目の的確性から見た基準であり、その中の4番目にある「団体等の補助事業の収入に占める補助金の割合は10%以上50%以下であること」を付け加えた。あくまで基本的にという考えであり、中には60%、70%を補助金で賄っていかなければどうにもならないという団体もあるようであり、それを下げることによってその団体が消滅してしまう、その団体はどうしても必要だということになれば出さざるを得ない場合もあると思う。総じて、自助努力で会なりグループを維持していくということを基本に、10%にも満たない補助金であれば自助努力でやれるのではないかと、50%を超える団体はもう一度見直しが必要だということで、補助金の割合を数値として掲げた。

もう一つ、数字として入れたのは、3番目の期限から見た基準の1番目にある「単年度補助以外の補助事業等については、原則交付期間が3年以内であること」である。いつまでも市の補助をあてにするのではなく、とにかくそれぞれのグループで自助努力して立ち立っていただきたいということである。この3年という期間についても、3年で打ち切ることができない場合があるかもしれないが、そういう目的を設定して、期限が来たらさらに見直していこうということで付け加えたものである。

そういう基準を部会として決めたのであるが、今後の予定としては、資料4は前回資料要求のあった補助金、負担金の一覧であるが、これら全てを部会だけで目を通すのは無理であるので、事務局の協力を得て、重要なものは6月後半に担当課のヒアリング等も実施しながら決定していきたいと考えている。

因みに資料4の見方であるが、補助金は全部で184件あり、そのうち国や県から補助のあるものを除く142件が部会の審査の対象としようというものである。7頁の下に審査対象外とあると思うが、これは国・県の補助があるものである。9頁では、既に実績として15年度で廃止したものも載せてある。ただ、その中でも魚まつりのように、イベントが無かったから出していないというものがあり、新たなものが出てくれば、一概に廃止ということでは済まないものもあるが、実績としてはそうなっている。10頁目からは負担金になるが、負担金の審査の対象は上から20番目までであり、10頁目の一番下からは審査対象外となっている。そういう見方をさせていただきたい。以上である。

会長

これから会議に入るが、報道関係者にはこれで退席していただきたい。会議終了後に記者会見で報告するのでよろしく願いたい。(報道関係者退席)

委員の皆さんには、前回は申し上げたが個人での取材には応じないようお願いしたい。

それでは、ただいま2つの部会から報告があった行財政健全化部会の方からの中間報告、あるいは補助金等について、一括して質疑を行う。

委員

いま説明をいただいた項目はそれぞれ非常に関心のある項目であり、数多く多岐に渡ったと思うので、何を一つ感じたいかという、両部会長にお願いしたいが、痛みの公平性について偏りを感じていないかということについて一言ずつ触れていただきたい。

行財政健全化部会長

痛みの公平性について、これは私の個人的な意見になるが、まさしくいまの行財政の健全化に向けての中間報告案については、実施するのが役所のことであり、ここで妥協していいのかということは多々あるが、年度ごとにこの中間報告は当然フォローしていくので、行政も本当に身を切ってやってくれるものだということからして、市民の方にも一部負担してもらうことが公平であろうと、あるいは公平であってほしいと思っている。回答になっていないかもしれないが、実施するのは役所が先であり、後は市民にも少し負担をしていただくということであるから、一にも二にも早くこのプログラムをやってほしいということでこの中間報告をまとめたものである。

主な発言内容(要旨)

補助金等審査部会長 公平性というのは、補助金に関しては、資料3の最初の方に出てくるように、市の方では昭和55年度に一律10%カットをやって、その後も年度ごとに見直しをしてくているはずである。表向きにはぎりぎり絞った段階の補助金であると思う。それをさらに絞っていくわけで、全体では3億8千万円ほどの補助金であり、全体の額の中では小さいことから、個人的には見逃してもいいと思うようなこともある。しかし、補助金を削減することによって、行政の方もがんばっているぞと、市民も一緒になつてとにかくがんばってもらわなければいけないということを最も感じてもらえるのはこの辺りかなと思っている。そこで先ほども申し上げたが、一律に5%なり10%削減するのが最もやりやすい方法なのだが、資料4を見ていただければわかるように、全てを補助金として一つに取り扱えない部分もある。補助金によって10%、20%と削減に差が出れば不公平感のようなものは出てくると思う。しかし、そういった不公平感も含めて痛みとして受け取ってもらわなければいけないのではないかと考えている。

委員 私どももいろいろと商工観光課の方に出向いて、今度こういう風に中心市街地活性化のためにイベントをやりたいのだがということで、何かしら補助や援助をお願いしている立場であり、補助金の一覧をどきどきしながら見ていた。

実際問題、部会長の報告にもあったように、200件近い3億余りの補助金は、全体の中では微々たるものとは思えないが、ある程度絞り込んだ金額を出しているということなので、プラスアルファというか、金で絞るよりは担当の市の職員が出向いて体で奉仕するという形があっても良いのではないかと思う。どういう風に補助金が使われているのか、金だけの方が受ける立場としては楽でいいのかもしれないが、ぜひとも市の職員の出向を仰ぎたいというような、何も1年間べったりではなく、例えば週に1回とか2回、担当のセクションの職員が来て指導するなり、市の職員が体で補助をして、その代わり金額的にはある程度カットするというのをやってもおもしろいのではないかと思う。

やはり市の職員は、親方日の丸というか首を切られることがないという大前提の上にいるのではなく、現状を踏まえて、本当に自分が給料に見合った分だけ勤めているのかどうか、意識改革というか、もっと危機感を持っていただきたい。前にもあったが、高い給料をもらっている人には、早めに辞めた方が退職金をプラスアルファでもらうことができるという退職金の制度をもっとPRして健全化に努めていかないと、50数億の赤字が3,4年で簡単にペイできるものではなく、まず人件費が一番大きい問題だと思う。

また、市議会議員の報酬も含めてだが、ぜひ良識の府たる議員にも、市長が1割カットということであり、右倣いということで1割カットをお願いしたい。早急に議会で決議をしてもらいたいと思う。

委員 前回の会議で説明はあったかもしれないが、資料の財政調整基金残高について計算が合わないように思うが、説明してほしい。

財務課長 前回は説明したが、財政調整基金残高のH13年度、H14年度については、実際に決算、決算見込みが出ているので、実際の財政調整基金残高になっている。H14年度については、1231百万円で決算見込みの残高である。現行と改善後の試算の違いは、その他収入の中に繰越金が含まれており、そのいづかを財政調整基金として積立てている。そのため単純に差し引いても計算が合わない。

委員 その他の収入は、全額繰越になるのか。

財務課長 その他収入の中には、繰越金以外にも臨時財政対策債等が含まれている。繰越金がH13、H14の財政調整基金については含まれており、H15についてもH14から見た繰越金の見込み額が含まれている。H16以降については繰越金が生じるか

主な発言内容(要旨)

委員

どうか全く分からないため繰越金は見ていないので、歳入と歳出の差引と合致している。

補助金一覧表を見ると社会福祉協議会もかなり補助の対象になっている。運営補助金は毎年減額になっていると思うが、社会福祉協議会は、補助金をカットされながらも何とか事業を行ってきた。

また、地域住民のニーズに応じ、いくつかのサービス事業を活発化させるなど、社協としての責務を果たしてきていると思っている。H12から介護保険がスタートし、その事業収益があったからやってこられたが、いつまでも介護保険事業が順調にいくとは限らず、将来的には厳しいと思う。

また、シルバー談話室の設置事業についても210万の補助を貰っているが、これは、社協というよりも地区社協の活動資金になっており、地域福祉を行っていく上で重要な活動費となっている。

老人休養ホーム運営補助金については、寿養荘への運営補助だと思うが、H14年度は延べ人数で4万7千人の利用者があった。やりようによってはもっと増やせると思う。ただ、たくさんの人に利用してもらおうと思えば、それなりに費用がかかるだろうし社協の持ち出しも必要になってくる。

また、社協は、介護保険以外の事業もやっているが、寝たきりの人など、通院時に、車椅子やベッドを使用しないと病院へいけない人もいる。そういう人達の移動を支援するとなれば、いわゆる赤字事業になるが、赤字だからといって止めるわけにはいかない。むしろ、そういう人達の利用が増えてきている。

そうなってくると、社協もH18ぐらいまでは何とかやっていけると思うが、さらにそれ以後の展望となると、厳しいものがあるのではないか。そういう意味では、社協としても、ある程度の事業をして収益を得ながら、それを活動資金とし、地域住民のニーズに対応できる新しいサービスを作り出して展開していくという姿勢も必要であり、社協の役割だと思う。

ただ、補助金のカットは、厳しい現状では必要だとは思うが、活動力となる資金源であることも考慮してほしい。

会長

補助金の中身については、補助金等審査部会で6月24日に各セッションとのヒアリングも予定しており、先ほど部会長も言っていたが、市民と痛みを分かち合うということで理解いただきたい。

今回は方針について意見をいただきたい。また、補助金の中身については、今後のヒアリング等で十分に協議いただきたい。

委員

中間報告(案)については、行財政健全化部会、補助金等審査部会、ともに短い期間にかなり突っ込んでよくまとめている。補助金の方で補助金等の交付基準が新しく提案された点については非常に評価している。ぜひ次回までにこの基準で見直した時に、補助金をどの程度まで控えていけるか。どの補助金を削るかと言うと損益勘定が出てくるので、調整が難しい面もあると思うが、こういう具体的なガイドラインが出ているので市長には、すぐに指示して実行していただきたい。大変素晴らしいと思っている。

また、市民懇話会について、市長の方から、この懇話会は評価されているというメッセージがあった。市民も痛みを伴うことに堪えて、良き氷見市民としてこれから市を盛り上げていく必要があると思うが、この内容を早い段階からオープンにいくことが大事で、せっかくの論議が闇に葬られるということになってしまうのは如何なものかと思うので、今日は両部会から素晴らしいまとめが出ていたので、是非、市民の同意も得たうえで、健全財政になるように皆で頑張っていくべきだと思う。

委員

前回の懇話会の時に合併問題に対する議会の考えについて意見があったが、先程からの受益者負担等のことを考えてみると、小矢部、氷見、高岡は料金が高



主な発言内容(要旨)

いから、民間で言えば、要らない市だと思う。

また、議員は報酬の額を減らすより頭数を半分に減らすべきだと思う。烏合の衆で、たくさんいたのでは、これだけの大仕事は出来ない。やはり少人数で進める方がやりやすい。今ほどの意見にもあったが、もっと中身をオープンにすべきで、そうすれば、議員数は本当に微々たる人数しか必要ない。市民は本当のことを分かっていないと思う。

それと、早期退職者に特別の退職金を出すというのも良いと思う。今、市の職員と商工会議所の職員の働き様が一番悪いと思うが、就職口としては一番良い。氷見の企業といえば市役所となるが、職員の頭数が多すぎる。もっと稼働率を上げないといけない。市民病院でも年配者が多すぎて、若い職員が居なくなってしまう。こういったところを改革しないといけないと思う。

いろんな事をオープンにして皆に分かるようにすべき。今日の資料にしても、この場に来て初めて目を通した。もっと早くに配っておくべき。

今日は、市議も傍聴に来ているが、市民は今の高い水道料、高い固定資産税を我慢して払っている。高岡と合併していれば、もっと下がるはずで、それをしないでやっていくというのであれば、市会議員も体を張って数を減らすべき。これはぜひ実現してほしい。議員では決められないと思うから言っている。黙っていたら氷見市は良くない。

委員

行財政健全化部会長に聞きたいが、資料の中期財政見通しについての説明が分かりにくかったので、もう一度説明してほしい。

事務局長(行政改革推進室長)

(事務局から説明)第1回の全体会議の議論に戻らと思うが、この資料で示した試算は、仮にH14年度ベースで何も改革を進めなかった場合に、中期財政見通しでは、歳入が584億円、歳出が642億円となり、歳入歳出で58億円の収支不足になるというもので、その収支不足を歳入で5億1千万の増加、歳出で44億円の削減を行い、合わせて49億1千万円となり、それに財政調整基金の一部を取り崩すことで、約58億の収支不足解消を図っていくというものになっている。

委員

これは努力すれば改善できる範囲で試算しているのか。そうであれば、見通しがやや甘いと思う。例えば、普通交付税や特別交付税は今までどおり期待できるのか。

財務課長

これはあくまでも現行制度が続くと仮定した上での試算である。ただ、市町村合併による影響等は考慮しており、現行より若干下げたもので試算している。単年度で言えば、1~2億円程度下げて試算している。

委員

新聞や有識者の意見等を見ていると、今後もデフレ経済が続き、税収はもっと落ち込んでいくと考えられる。そんな中で、この交付税の見通しは甘い。かなり減らされていくと思う。だから小泉政権は市町村合併等を進めているのであって、今、試算された交付税が確実に入ってくるというのは、獲らぬ狸の皮算用のようなものである。

アメリカなどは、国レベルの話だが、目に見える数字で日本経済を立て直してくれだとか、劇的な変革をしてくれなどと盛んに言っている。また、民間企業の成功例で言えば、日産はカルロス・ゴーンがリストラ等、改革をどんどん進め、数千億円の赤字を黒字に転換した。カルロス・ゴーンも外国人であるので、目に見える数字、劇的な変化ということで改革を進めていったのだと思う。その結果だと思う。

もっと劇的な改革をしていくことによって市民に評価されるのだと思う。

委員

数値目標を設定し、給与もカット、人も減らし、市民サービスも見直しということだが、一番心配しているのは、市民サービスの見直し等によって、せっかく利用されている市民サービスを享有する意識が薄れてくるのではないかということで、そのこと

主な発言内容(要旨)

行財政健全化部会長	<p>によって、市の将来の健康づくりや福祉の面で大きな影響が出てくるのではないが、財政状況が厳しい中で、今までどおりのサービスを続けていくことが、困難であることは理解できるが、市民生活に直接影響することなので憂慮される。</p> <p>もう1つには、受益者負担についてであるが、将来の広域化を展望した場合、近隣の市町村と比較して負担に差異のあるものについては、積極的に見直しを図るとあるが、この意味をもっとわかりやすく説明してほしい。</p> <p>受益者負担については、将来の氷見市を考えていくにあたって、他の市町村との比較をする必要がある。氷見で言えば、一番近い高岡との比較が一番分かりやすいと思うが、もっと比較をしながら、その差異について本当にこれで良いのか、見直しを検討していく必要がある。</p> <p>今回の資料では、高岡との比較で受益者負担の算定をしたが、高岡との比較だけで良いのかも含め、今後は、もっと広域的な見方で、他市町村と比較をしながら受益者負担を積極的に見直ししていきたいと考えている。</p>
委員	<p>今回で3回目の懇話会になるが、両部会の流れを尊重したいと思う。</p> <p>今回の数値目標だけで今後を決めるというのは無理で、必ず微調整があると思うが、この試算にあたっては仮説が必要で、仮説は確実かと言い始めると議論が成り立たない。今の懇話会での議論の流れは尊重したいと思うが、個人的に考えている流れのイメージを持っており、後ほど少し時間をもらいたい。</p>
委員	<p>両部会の案は、見識・経験のある方達から出たものなので良いと思うが、この中間報告(案)が、正式に市長に提言され、市長から議会へという流れで進んでいくとなれば、実行性の問題を危惧している。スムーズに実行できるかどうかは、市民の同意が得られるかどうかにかかっていると思う。</p> <p>最初にそれぞれの家庭の財布を考えてもらって、他市並みにやっていたのでは、氷見市は立ち行かないということ、市民それぞれが自覚することが大事で、そうすれば若干の市民サービスの低下や受益者負担の見直しがあっても、市民から、それ程強い抵抗は出てこないのではないか。</p> <p>実行性の担保ということになると、報告の内容をオープンにすること、そしてなるべく市民に理解してもらうという努力の積み重ねが、必要だと思う。</p>
委員(代理)	<p>今日の会議は代理出席で初めてなので、よくわからないが、かなり厳しいなと感じた。懐具合を考えながら、ボランティアグループもいろんな補助を受けているので、ボランティアの代表として、自分達も考えていかなければいけないと感じている。</p>
委員	<p>両部会長の報告を聞いて、中間報告として良いものが出来たと感じており、この案で市長に報告することに賛成する。</p> <p>ただ、議会について具体的な数字が出ていないが、先程から議会に対する厳しい意見も出ており、出来れば具体的な数字を報告に載せた方が良いと思う。</p>
委員	<p>先程、一番働かないのが商工会議所と市の職員だという意見があったが、誤解しないで欲しい。そんなことはない。商工会議所の職員はよく働いていると思っている。商工会議所は、市の補助を受けてやっているという誤解さえ抱かれかねない。</p> <p>前会頭もいるが、10年あまりの間にいろんな基金を1億8千万円も積立てた。これは立派なことだと思う。そういった部分も知ってもらいたい。</p> <p>また、補助金削減については、シルバー人材センターと関わっているので言わせてもらうが、事業を営んでいる委員もたくさんいるが、こんな安い運営手数料でこの事業が可能なのかと思うほどで、これだけ複雑で広範囲な仕事を8%の運営手数料でやっている。自分も小さな事業を営んでいるが、通常は20%程度の運営手数料がないとやれないと思う。仮に、補助が削減されるというのであれば、手数料は</p>

主な発言内容(要旨)

委員

上げざるを得ない。

補助金削減ということについては、他市にも同規模のシルバー人材センターがあると思うが、他が1,000万円の補助をもらっていて、氷見市のセンターが3~400万円では情けないと思う。ただ、協力すべきは協力するつもりではいる。

今日の中間報告では、前回の懇話会から微調整があったが、先程から聞いていると、総合計画とは違い、かなり生々しいデータに基づいた方向付けであるので、大変な改革だと感じている。

もらった資料にも、中間報告(案)として緊急に取り組むべき方策を取りまとめたものであると書いてあるが、これだけの内容の報告を項目別にむやみに長くないような形でまとめてあるので、読ませてもらった。

その中で、以前から大変であろうと思っているのだが、人件費抑制の問題が掲げられているが、職員のやる気減退や、市民サービスの低下を招くことなどがあってはならないと書いてある。定数削減や給与カットといった経費の抑制が今回の改革の本筋であり、大事なことだとは思うが、もっと前向きな面を報告に載せる必要があると考えていたが、今回の中間報告(案)では、しっかり書いてあった。

また、受益者負担の問題、市民の理解と協力参加ということだが、市職員が公務員として、これぐらいの意気込みで取り組んでいるのなら、我々も市民の一人として取り組んでいかなければならないと思えるような内容であってほしいと思っていた。

また、先程も部分的に話題になっていたが、全国類似団体との職員数比較を見ると全国の類似団体ではこれ位の職員数だが、氷見市の場合は、職員がこれ位必要という具合に比較しながら、削減できるところは削減しなければならないということだが、その中にも地域性もあって、保育所などを見ると、氷見市は、類似団体に比べ非常に多い。また、小中学校なども多くなっている。ただ単純に、氷見は職員が多すぎるから全国類似団体の平均位にすれば良いというものでもないと思う。

氷見市の場合、谷ごとに分かれているという地域性もあり、簡単に数字だけを見ながら議論する問題ではないのではないかと。もちろん、当事者としては、その辺も考慮した上で今後の方向付けをしているとは思いますが、マイナス面もあると思う。そういうローカルな氷見ならではの部分も念頭に置いて計画を進める必要があると思う。

また、基金を活かしたまちづくり、賑わいの創出ともあるが、市長がいろんな場所で氷見市が今後目指すべき大事な方向性を打ち出している。最近では「ど〜んと氷見」の連載等、氷見の記事がたくさん出ていると言われたこともある。そういった記事を見ていても、活気や活力が感じられる。

そうした中で自分も関わっている芸術文化団体の関係についてだが、市民会館を拠点にしているが、「美術館が氷見にはないではないか」「規模の割と小さな市町村にもあるのに氷見にはない。いつまでもこういう状態で良いのか」という意見もあるが、ただ、立派な箱物を作れば良いのかという話になる。やはり現状の中で、美術展覧会を行うのにふさわしいロビーやパネルの配置、ステージの使い方、高齢者に対する階段の上り下りの対策などを講じていく必要がある。

現在もロビーなどを有効活用しながら展示をしているが、氷見の市展というからには皆そういうつもりで見に来るので、今後も大変厳しい財政状況の中だと思うが、ビジュアルに楽しめる場の設定に今後とも協力願いたい。

委員

中間報告にもあるが、市民が主役のまちづくりということで、今、市役所で市民アイデアオリンピックということで、氷見市を元気づけるアイデアを市民から募集しているが、あまり応募がないと聞いている。今度応募しようかと思っている。

本来、市民の代表である議員が全部やってくれるのなら、我々は何もする必要はないと思うが、いろんな要職についている委員が、1日1,700円の費用弁償のみ

主な発言内容(要旨)

でやっている。市民が主役のまちづくりということで、もっとこういう機会を増やしてもらえれば、仕事を抜けてでも参加したいと思っている。

前回の行財政健全化部会で出た意見だが、今回の中間報告では、かなり良い提案が具体的に数値も示した形で出ていると思う。ただ、これを行政に渡して実行していく時に、出したはいいが、どの程度まで実行されたのかをチェックするものが全然無いというのは如何なものか。

先程の意見にもあったように市民のコンセンサスを得ながら実行するのも大事だと思うが、H18年度までに、ここまで達成できたという確認はどうするのか。ちゃんと見届けていかないと、懇話会の意見が言いつばなしになってしまって、何処まで達成できたのか、途中段階で何処が良くて何処が悪かったのか、ここが間違っていたといったチェックはどうなるのか。通常、市長がこれをやりたいと提案すれば議員がある程度修正をして、バランスをとっているが、この懇話会の提案は、議会とは関係なく市民の代表として提案している。実行していった時に確実にチェックしていくことが一番大事なことだと思う。そうしないと、この懇話会が、ただ好き勝手に意見を述べるだけの会になってしまう。1年の任期が終わればそれでおしまいというのは非常に寂しく思う。

委員

短期間の内に行財政健全化部会と補助金等審査部会が非常によくまとめたと思う。ただし、個人的にはまだまだ生ぬるいところがたくさんあると思っている。まず、実行性のあることが一番大事で、その辺りである程度妥協した。先程の意見にもあったが、この改革を行った暁には市民にこうしてほしいとコンセンサスを得ること。市民挙げて行政を良くするという姿勢がこの懇話会の一番大事な所ではないかと思っている。

また、答申が出て、方針が決定した時には、誰が推進して、誰が責任をとるのかということを確認してチェックしないとイケない。それにより、市民が見ている中で進めていけば、市民の協力も得ていけると思う。

それと、H18までの試算では、どう頑張っても約8億円の収支不足が生じるということだが、この中間報告案で決定するのならそれはそれで仕方ないにしても、年度ごとの会社で言うところの決算報告や株主総会というものをきちんと行って、計画の途中経過を市民に公表すべきで、予定通りにいかなかった場合は、その理由も説明しながら、最終的に達成できなければ、自分が責任をとるといぐらいの推進者の腹構えが一番大事だと思う。

ぜひ、この懇話会が答申した時には、具体的にやりきるとい行政、市民挙げての実行力が必要だと思う。

委員

先程、部会長からH18年度までの財政的な改革内容について説明があった。それを実行していけば、いくらかの財政調整基金を取り崩すことで乗り切っていくという話があり、もう答申が出たような感じがしているので、改めてその内容についてどう言うつもりはない。

ただ、先程から聞いていて財政的な内容について今の案では手ぬるいとか、この計画の経過を誰が見届けるのかといった意見が出ていたが、市の財政の中でどうしても動かすことの出来ない公債費や人件費等の固定費があり、やむを得ない部分もある。

また、経過については毎年、市の広報で財政状況が公表されており、それを見ればわかると思う。ただ、財政的な数字だけを追いまわしてばかりいるような気がする。歳出の削減等は確かにやっつけていかなければならないが、今、氷見市は活性化を求めて、6万人定住・200万人交流目指している。単に若者が定住して、風景が良く、住みやすい土地というだけではなくて、活力のあるまちをどうやって作っていくかが大事だと思う。

主な発言内容(要旨)

行財政の懇話会とは趣旨が違うかもしれないが、意見を言うだけではなく、将来の展望みたいなものを議論する必要があると思う。氷見市民として氷見に生まれ育って良かったという気持ちを与えるような氷見市になって欲しい。今までの議論の中でつくづくそう感じた。どうすれば良いかと言えば、あれも削りこれも削りという中で、先だって高岡の市民病院を受診した時に年配の女性がボランティアとして一生懸命に働いていたが、行財政改革によって、市民サービスが低下する部分があるのであれば、その部分はボランティアを活用して埋めていけば良いと思う。

また、この問題は単に行政だけの問題ではなく、氷見市民全体の責任の中で住み良いまちづくりというものをこの機会に図っていくべきではないか。行政の責任だとかそういうことではなく、住民一人ひとりが考えていかなければならない問題だと思う。

委員 補助金等審査部会にいるが、本当に必要な人のサービスを低下させないということ話し合っていきたいと思っている。子育て、少子化、学校教育でどんな人材を育てていくのかといった問題は、氷見市にとってとても大事なことだと思うので、しっかりやってもらいたい。

また、超高齢者、寝たきり、それを介護する人等は非常に苦労していると思うが、そういうところには、しっかりしたサービスをしてもらいたい。親がやれること、行政がしなければならないことを市民が認識していくことが大事だと思う。自分の孫が通っている保育園や小学校では親達が一生懸命に施設の草むしりや、グラウンドの整備もやっている。親が出来ることもあるが、行政として力を入れないといけない部分は落としてもらいたくない。

委員 行財政の健全化について、先程から歳出の削減ばかり強調されているが、歳入の確保も図ってほしい。

氷見市で金が落ちるようなアイデアを出してほしい。例えば、砺波チューリップフェアなどは一人800円で何万人も来場している。氷見でもそういったものを考えたらどうか。新たに箱物を造るというのではなく、今あるものを利用して、漁業のまちということで市内の民宿の客を全部集め、金を集めて地引き網を見学してもらうなど、金をかけずに収入を得るような方法を考えてほしい。

また、歳出の削減については、市職員が意識改革するというのを信頼し、改革を実行してもらえと思っているが、もう1つ言いたいのは、住民の意識を変えていく必要がある。そのためには、市長が、まちづくりをどうやって進めていくのか、こうしていきたいから、協力してほしいということを市民にアピールするなどして、住民自身もある程度変わらなければならないと思う。そういう説得力のあるまちづくりがあれば、受益者負担についても他市町村と横並びではなくても市民は納得してくれるのではないかと。

それと、補助金についてだが、一覧表を見ていると、非常に少額のものも多く、もらわなければ損だということなのか、一体何に使われているのか。各団体の活動にどれだけ役にたっているのかと言うことを考えると、補助金や負担金の問題には、まだまだ踏み込んでいけるのではないかと。他が補助金を貰っているから、自分の所も貰わないと、力がないと思われる。そういう面での意識改革も必要だと思う。補助金に頼らずに自分達でやることはやっていくという姿勢が大事だと思う。

委員 各委員からいろいろ意見が出たが、まだ言いにくかったような点もあったかと思うので、この後、市三役だけ残り、市職員には退席してもらって、各委員もう一度1分くらいずつでも意見を述べたらどうか。市を締め付けるような話ばかりなので、職員の前では言いにくいこともある。

会長 今日出席している市の職員は、民間で言えば経営者みたいなものなので、特に遠慮することはないと思う。委員の意見は職員にも知っておいてもらった方が良い。

主な発言内容(要旨)

委員

行財政健全化部会に入っており、そちらで意見を言ったので、この場で言うことは無い。補助金についても、たくさんの補助金があって大変だなと思う。今ほどの意見にもあったが、本当に必要なのかなとも思う。

また、委員の中では、自分が一番若いと思うので若者の代表として言うが、水道料等、受益者負担について話があったが、正直に言って今の若い世代には行政改革には興味が無いと思う。周りに聞いてみても、最後になればどうせ税金を上げるのだから位にしか意識がないと思う。逆にこの資料のようになるのだったら、氷見から出て行って他市町村に住もうかなぐらいのものだと思う。

したがって、何を言いたいかという、早く市民に行政改革とは行政側だけではなく、市民にも負担があるということについて、理解してもらえるような場なり、周知徹底すべきだと思う。

それと、聞いていると減らす話ばかりで、企業であれば収入があるということで、夢のある新しい収入源がこうで、だから氷見に住むのだと、みんなで頑張ろうではないかという前向きな話も今後進めていってほしい。

中間報告(案)としては、これで良いと思う。

委員

市長に直訴したいと思う。市長の気持ちの中には、この改革をやり通せるのかという不安があると思う。やり抜くための条件というのは、委員から出た意見の中にあると思うが、氷見の改革の中身を、氷見の人間ばかりで、役所の見通しをベースにしながら進めていくということは、先程、市長も言っていたが、市民、市職員、議会の意見が一致しないと実現できない。4年間の集中改革期間中の3者の意思統一を維持していくのが最も難しいことだと思う。そのためには、意識改革という言葉も良く出るが、最初の基本認識を変えないといけないと思う。

1つには、単独市の道を選んだということは、今までとは違うということ、今までどおりいこうという感じで一般に受け入れられ、今回の議論の結論になるのではないかと不安を感じている。民間の企業がよく使っている言葉に「新創業」があるが、それをここに置き換えると、新しく市を作ろうではないかという市長の発案に対して、議会や市職員が力を合わせる。一般の企業に例えると同志が結合してくる。そこに新しい市の(企業で言う)創業があるのではないかと思う。そういう基本的な認識、つまり、今までも単独市でこれからも単独市だが、しなければならないことは全く違うということを強調していきたい。

もう1つには、県内9市の財政力比較についてだが、前回もらった資料に、いくつかの財政指標が出ていたが、氷見市は、いずれも下から1、2番目であった。

前回の懇話会でこの問題に触れた時には、錯覚をしていて、もう少し頑張ってもらってH18年の改革期間終了時には、9市中4～5番目なるようにしてもらわないといけないと思っていたが、その後の議論を聞いていて自分の勉強不足だと理解した。つまり、氷見は今までもこれからも金の入らない市であるということで、他市と財政比較した表が出ているが、比較する必要は無いと思う。もう、他市とは隔絶しており、追いつくことが出来ないということが基本的な認識でなければならないと思う。

この2つをベースにしていけないといけないと思う。

この一連の改革期間は、4か年ということでH18年を決算年度にした形で進んでいるが、まだまだ予算積み重ね型のような気がする。予算積み重ね型というのは、どうしても出来ない理由が先にたってしまう、理由はどうあれ、しなければならないという形にはなりにくい。そして、結局先送りになりやすいと思う。

4年間ずっと緊張状態を保っていくには、決算を明確にし、あるべき姿までも明文化して、1年1年引き戻してくる形が良い。そして、その時の条件として、部にも課にも目標値をもってもらい、そういう動きの中でコスト意識や、分権自治の勉強がそういう中から進むのではないか。どうすれば氷見が自立できるのかという自覚無しに

### 主な発言内容(要旨)

勉強しろと言っても、なかなか続かないのではないか。

自分なりに皆さんの議論を聞いていると、民間論にどうしても偏る。民間論というのは、民間にしてもらった方がよいことは、民間にてもらおうというところまででよいと思う。役所と民間企業を比較してあれこれ言ってみても比較にならないと思う。比べてはならないものを比べていると思う。民間にやらせた方が損か特かという基準で、民間の方がやり易くて早く出来て、安くあがるというのがポイントで、そこまでよいのではないか。

また、民の問題が出たので1つ言っておきたいのは、民間がすべて役所より優れているということは有り得ない。ただ、民間は違うと言えることが1つある。至上主義経済というグローバルスタンダードの中で、四六時中晒されているという事実。下手すれば、明日には潰れてしまうということもあり得る。収入に見合った支出を考えるべきだということ、支出が動かせないなら、収入を凶らないといけぬ。役所は、そのものさしを自己責任とかいうものさしで問題に取り組む。そこが民と官の決定的な違いだと思う。

だとすれば、財政力比較ということで9市の比較をすることに意味は無い。国の景気がV字回復して、今までどおりに、ふるさと創生資金のように金をばらまいてでもくれない限りはどうしようもないと思う。

次には、市民に自立意識をどうやって持ってもらおうかということにも成功するかしないかの大きな問題がある。これは無視できない。市民に痛みを与えないというのではなく、痛みを市民に納得してもらおうということが大事で、納得してもらうためにどうしたら良いのか、ということそれぞれを考えれば良いのではないかと思う。

例えば、恵まれた大自然には、そこに溶け合った心豊かな人間社会があって初めて6万人定住のまちを作ろうということが言えるのではないか。「近き者喜ばば遠き者来たらん」というが、近き者が喜ぶ状態というのは、恵まれた大自然に溶け合う状態で、遠き者が氷見の大境でバスを降りて景色を見るというのではなく、氷見でバスを降りて、氷見の人間と触れ合い、そして氷見の景観を眺める。これは全然違う。氷見市民が、自然景観との溶け合った状態で、初めて氷見は200万人交流のまちを描けるのではないかと思う。

そうすると、痛みを分け合うとかの問題ではなく、そういうまちを作っていくために、市民に前向きに痛みをこなしていこうではないかという気持ちになってもらうにはどうしたら良いかということで、言葉で言いくるめるのではなく、市民一人ひとりに市民の問題として市民同士で話し合ってもらうにはどうしたら良いかを考えないといけぬ。

市長に最後にお願ひだが、TV番組に「その時歴史は動いた」というのがあるが、今、氷見はまさに歴史が動く時だと思う。誰が氷見の歴史を動かすかと言えば市長ただ一人で、市長以外に市民の心を揺さぶることは出来ないと思う。

そういう意味で市長にはもう一段奮発してもらって、給与の問題を組合と膝を交えて議論してもらえないかと感じている。ただし、これは市長に回答を貰おうとは思っていない。ただ、今日までの議論で感じたことを申し上げた。

会長

長時間にわたり大変熱心に議論いただいたが、この中間報告(案)は、議会や市民に一刻も早く知ってもらおうという趣旨も含め、議会前に中間報告をしたいと思う。

この中間報告(案)でよしいか。字句の訂正や若干の訂正は一任いただきたいと思うが、如何か。

委員  
会長

議員の定数をどれだけにするかという具体的な数字を入れてほしい。

それについては、議会の中で議論されることになっている。今後も本懇話会は継続するものであり、あくまでも中間報告の段階であるので、議会で特別委員会を作って議論しているという状況も今後注意深く見守っていきたいと思っている。

## 主な発言内容(要旨)

委員

この案がいろいろ練られて、内容的にも現在の状況の中では、見るに堪えるものであると思っている。

ただ、今後交付税の状況がどうなっていくか不明な中で、だけれども何らかの前提を立てなければならぬということで、現在の形になっているのだと思う。地方交付税や国全体の財政の問題など非常にぶれていて不安定な状態、その中で現在と同程度を見込んだとすればという前提にたって試算している。

そのことを明確にしておく必要がある。何時になるかは分からないが、総務省等の発言を新聞等で見ていると、地方へ交付するお金をカットして、実際に税金を多く負担している自治体がメリットを多く受けるべきだと言っている。その考えでいくと、東京都が一番使えるようになる。ある統計によれば、富山県などは、県民一人あたりが負担している額よりも、貰っている額の方が、43万円ほど多く、全国のほとんどの県が同様の状態らしい。

現実の問題として、国の方もお金が無いとか、税源をどうするかとかについて非常に論議され、不確定な要素が多いと思う。そのことは、この中に盛り込んでおくべきではないかと思う。

それと、先程から意見を聞いていて、1回目の懇話会の時にも言ったが、氷見市がいろんな財政指標の中で非常に状態が悪いというのは、逆に改革しなければならないという意味において、非常に有利な条件にあると思う。これまでの部会等の場で市職員の話も聞いていても、非常に真剣味というか危機感があるように感じられた。そういった面から、この改革がうまくいくのではないかと感じている。

問題なのは、財政状態が悪いから危機意識のもとで改革する自治体はあると思うが、本当は積極的な何らかの目標があって改革すべきだと思う。その改革の目標というものが、中間報告案では明確には出ていないのではないかと思う。

そのことは市長や市職員だけの問題ではなくて、市民全体のコンセンサスのあるような格好にする必要があるのではないかと思う。けれども、その場合も市長のリーダーシップがとても大事だと思う。

また、目標ということについては1つ言いたいのは、構造改革特区についてである。氷見市からも、いくつかの案を出していたそうだが、もう一度練り直せということで戻されたそうだが、構造改革特区は、氷見市が今後どんな市を目指すかという意味で大きな指針になるのではないかと思う。目指すべき方向として、いろんな規制を撤廃すれば、氷見市でもこういうことが出来るよということがあるのではないかと思う。皆さんにもいろいろなアイデアがあると思うが、ぜひ具体化すべきだと思う。そのことが改革の目標になり得るのではないか。

目標に向けて改革するということと、現状がとても悪い状態で、下手をすると財政再建団体になるのではないかと危機意識という2つの面から改革が進んでいくべきではないかと思っている。

先程の意見にもあったが、人員の削減や給与の5%カット等で人件費全体とすれば10%程度の削減が盛り込まれていると思うが、それは現状としては他市町村と比べても頑張った数字だと思う。

ただし、長期的に考えた時に交付税が現在のままであったとしても、20%程度カットしなければやっていけないのではないかと思う。さらにその上に交付税がどうなってくるか分からないとなると、1年先なのか2年先なのか分からないが、本当に突っ込んだ話し合いをしなければならない状況だと思う。

結論が出るのは先になるとは思うが、そういう状況になっているということを直視しなければならない。市には職員組合があるが、職員組合は大きな団体であるし、重要であると思うが、誰が中心になって話すのか分からないが、了解を得る努力をしていく必要があると思う。それも含めて市民に情報の公開をしていかなければ、



主な発言内容(要旨)

会長

本当に前向きで皆が納得できるような話し合いには、なかなか進展していかないのではないかと思う。

交付税の問題は、先程市長の話にもあったが、不透明な部分が多い。交付税というのは、国全体が公平な行政をということで本当は地方へは当初13%程度しか流していなかったが、国の税収がどんどん増えていった時に、現在25%ぐらいにも昇っている。それが破綻の原因になったということなので、交付税自体も見直される制度そのものが破綻したという状態で、言われるとおり大きく変わっていくだろうと思う。そういったことも含めて次回の懇話会は、補助金関係のヒアリングが終わった後に開催したいと思っている。その中で部会長に報告してもらう。この懇話会は5回予定しており、夢の部分、チェック体制の部分、市民にどういう風に理解してもらえば良いのかといった部分等もあと2回で議論していきたいと思う。

予定時間を30分ほど超え、長時間にわたり議論いただいて、これは皆さんの熱意だと思っている。次回以降もよろしくお願ひしたい。

最後に市長から一言いただきたい。

市長

長時間にわたる熱心な論議に感謝したい。両部会長にはご苦勞いただいたが、おそらく市とのやり取りの中で、いろいろと手ぬるい点もある中で議論を取りまとめられたのだと思う。

ごく普通の人、特に苦しい民間経営を経験している経営者の感覚で言えば手ぬるいということになると思う。ただ、国家レベルで物事が動き、国と地方の権力闘争と言えるかもしれないが、100年に一度あるかないかの過渡期にあるのではないかと思う。その方向がどうなっていくのか国で議論されていても分からないくらい複雑で厳しい状況だと思う。そんな中で、見通しを示さなければならない。とりあえず出来ることをしかもスピードをもって成し遂げることが大事だと思う。というのは市民が合併しなかったことについてかなり不安を抱いていると思う。少なくとも当面のことについてはしっかり見通せるという姿を示すことが大事だと思う。

その先の議論については、注意深くいろんな議論に参加したいと考えており、自分なりに意見も持っているが、当面のプログラムが大事だと思う。その先は、大いに議論しないといけないが、先程から各委員が話しているように、氷見は、今まで大変遅れてきた地域でもあるけれども、この先の時代を見ると、この遅れてきたことがプラスにも働くような要素を持っており、この地で人が生まれ死んでいく、人が幸せに一生を過ごせる地域としては、かなり優れた地域だということが実現できそうな地域になると思う。そのことを実践していきたい。市民が、幸いにもそのことを感じていたり、多くのよその地域の人も、そういう空気を感じて氷見を注目してもらえるような状況が出来つつあるのではないかと感じている。特に感心するのは、各地域や各種団体の市民のエネルギーが、確実に立ち上がりつつあるということで、自分達の事は自分達でやるという空気が、確実に氷見市内で芽生えつつある。そのことを大事にしていくためにも、この改革を進めて、その過程をオープンにしていきたい。市役所の職員については、自分のリーダーシップの無さから、大変厳しい意見も出ていたが、最近、若手の職員と少人数ずつに分けて議論している。若手の職員中心にほとんどの職員は、氷見市を本当にこよなく愛しているし、一生懸命仕事をする気持ちに燃えている職員ばかりだと思っている。中にはそうでない職員もいるかもしれないが、ほとんどと言っても過言ではない。そういう職員の熱意を削がないように、これからも、ちゃんと指導しながら行政を進めていきたいと思っている。それから最後に、今、合併しない論議から行革の議論になってきた。こういう厳しい局面の中で市長をさせてもらっているのは、男冥利だと自分では思っている。当事者意識が無いのではないかとか、この一連の過程がうまくいかないのなら誰が責任をとるのかという意見もいただいたが、それは自分しかない。責任をとったくらいでは済

主な発言内容(要旨)

まないと思っている。そのぐらいの覚悟でいるので、どうか関係の方に意見を取りまとめてもらって、またそれをもって議会とも相談し、氷見市のより良い方向を切り開いていきたいと思っている。